

はじめに

本学は、留学生受け入れ政策の取り組みとして、2018年に本学が多様な正規学部留学生を受け入れるための議論を開始した。日本語教育センターシンポジウムもこれに合わせた企画を立て、2018年度は海外の専門家を招いて、現地の日本語事情を学ぶとともに、今後の留学生受け入れの展開に向けた討論を行う機会を得た。この回では、ひきつづき海外の中等教育における日本語教育や日本語学習者の動向について学ぶ必要があることを強く感じるとともに、留学生の受け入れ促進が本学での学びにさらに豊かさをもたらすような取り組みを行う重要性についてあらためて認識した。これを踏まえ、2019年度は、引き続き同じ課題に取り組むこととし、2つの企画を立て実施した。1つ目はシンポジウム「多様な日本語力の学部留学生の受け入れと大学での学び」で、2つ目は講演会で「正規学部留学生受け入れの新時代－タイ・フィリピンの中高等教育を学ぶ－」である。そこで本冊子はこの2つの企画の様子を収録する。

シンポジウムは企画趣旨と本学の正規学部留学生のための日本語教育の展望と課題を整理した後、韓志昊氏（観光学部教授）による短期日本語プログラムでの実践、巖成男氏（経済学部教授）、浜崎桂子氏（異文化コミュニケーション学部長、同学部教授）による学部での実践、上西智子氏（経営学部 兼任講師）による学部を超えた実践についての報告、つづいて池田伸子氏（国際化推進機構長、異文化コミュニケーション学部教授）による多様な日本語力の学部留学生の受け入れと大学での学びに関する展望と課題についての報告があり、第2部で全体討議を行った。

講演会は Bernadette S. Hieida 氏（Assistant Professorial Lecturer 2, International Studies Department, De La Salle University – Manila）、Neancharoensuk Suneerat 氏（Associate Professor, Japanese Section, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University）を講師に迎え、現地の日本語教育および日本留学について学ぶ機会を得た。

参加者は学内の教職員をはじめ、学生、学外の方々に、シンポジウムが48名、講演会が11名の参加があった。ご登壇くださった皆様、またご参加くださった皆様に厚くお礼申し上げます。また、海外からの講演者をお招きするにあたり、ご協力いただいた国際交流基金日本語国際センター砂川裕一先生、今井理恵先生

2 はじめに

にも感謝申し上げます。最後に、企画・準備段階から本報告書をまとめるまでご尽力くださった日本語教育センターの皆様に心から感謝の意を表したい。

日本語教育センター長／異文化コミュニケーション学部教授

丸山 千歌